

引き揚げ

薄れゆく引き揚げの記憶を語り継ぐために

舞鶴市は、第二次世界大戦の終結後、13年間にわたり、66万人余の引揚者を温かく迎え入れました。そして昭和63年、多くの引揚者が祖国の第一歩をしるした平の地に、日本全国から寄付金を受け、引揚記念館を開設しました。

しかし、時代の経過とともに、引揚体験者の高齢化も進み、入館者が減少する中、有識者や体験者などによる「引揚記念館あり方検討委員会」の意見を踏まえ、平成24年から、市の直営として、学芸員を配置し史実の継承事業など創造的な事業にも取り組み始めました。

平成24年7月、風化しつつある引き揚げの史実を後世に継承

し、平和の尊さを広く世界に発信するため、シベリア抑留と引き揚げの関係資料の「ユネスコ世界記憶遺産」への登録を目指すことを表明し、まちぐるみで取組を進めました。



有識者会議の設置

平成24年12月、「舞鶴市ユネスコ世界記憶遺産有識者会議」（会長黒沢文貴（東京女子大学教授））を設置し、市が所蔵する約1万2千点の資料の中から、ユネスコ世界記憶遺産への登録基準である唯一無二の希少性や真正性、国際的な影響などの条件を兼ね備えている570点を厳選するなど、申請の準備を進めました。



署名活動の展開

平成25年、34の市民団体による「ユネスコ世界記憶遺産登録を応援する会」が発足し、署名活動が、市内はもとより全国や海外でも展開されました。そして平成27年8月には、目標の5万筆を達成しました。



音楽劇「君よ生きて」の舞鶴公演

「引き揚げ」がテーマで舞鶴やシベリアが舞台の音楽劇「君よ生きて」は、市が創作過程において、資料の提供や体験者への聞き取りなどを協力した作品です。平成27年7月に海外引揚70周年事業として舞鶴で公演され、その後、全国公演がスタートしました。

ユネスコ世界記憶遺産に登録が決定

平成27年10月10日、引揚記念館収蔵資料が「ユネスコ世界記憶遺産」に登録されることが決定しました。登録が決定したのは、「舞鶴への生還1945-1956 シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」

と題された関係資料570点。午前2時ユネスコのホームページで登録の決定が確認されると、結果を待ち続けた市民100人や関係者らの喜びの歓声であふれました。



▲代表的な登録資料「白樺日誌」



全国巡回展の開催

引揚者を迎え入れた全国の引揚援護局開設地や引揚港としてその役割を果たした都市と連携し、全国各地で巡回展を開催しました。



開館30周年引揚記念館をリニューアル

引揚記念館では、戦争を知らない世代への発信力を高め、貴重な資料の保存と活用環境の充実を図るため、第一期工事として、セミナールームの増築や展示室の全面リニューアルを行い、平成27年9月にオープンしました。

その後、第二期工事として、ユネスコ世界記憶遺産に登録された貴重な資料を保存するための収蔵庫や企画展示室、抑留生活体験室を新設し、「次世代体験型施設」として開館30周年の開館記念日である平成30年4月24日にグランドオープンしました。



▲開館30周年に多くの市民や体験者が集う



▲グランドオープン後全景



▲抑留生活体験室

引き揚げの歴史と平和の願いを世界へ未来へ

10月7日を「舞鶴引き揚げの日」に

引き揚げやシベリア抑留の史実と引揚者を温かくお迎えしたまちの歴史を、次世代へ継承するとともに、平和に対する意識の高揚を目指すため、平成30年に、舞鶴港へ引き揚げ第1船が入港した10月7日を「舞鶴引き揚げの日」とする条例を制定しました。風化しつつある史実を見つめ直し、これからも平和への願いを舞鶴から世界へ、未来へ発信していきます。



国際博物館会議のプレ大会を舞鶴で開催

平成30年に世界の博物館関係者が集う「国際博物館会議（ICOM）舞鶴ミーティング2018」を商工観光センターで、翌年の京都大会のプレ大会として開催。本市から引揚記念館学芸員もユネスコ世界記憶遺産登録に向けた取組や若い世代への継承などについて事例などを発表しました。



教育旅行の推進

次世代への継承として、市内のふるさと学習や全国からの教育旅行の誘致に積極的に取り組んでいます。近年では、関西や関東方面からの中学校、高校の修学旅行も増えています。



秋篠宮同妃両殿下 引揚記念館にご来館

平成29年4月、秋篠宮ご夫妻が、八重桜が満開の引揚記念館を訪問され、シベリア抑留や引き揚げに関する資料、復

元された引揚棧橋をご視察されたほか、抑留や引き揚げ体験者3人と懇談されました。



▲復元した引揚棧橋をご視察される様子



▲抑留体験者安田さんの話をお聞きになる両殿下

「次世代への継承」から「次世代による継承」へ

引揚記念館ではNPO法人「舞鶴・引揚語り」の会が語り部活動で活躍しています。平成29年度には学生の語り部も誕生。現在では、中学生から社会人までが次世代の語り部として「引き揚げの史実」のほか、「舞鶴のおもてなし」や「平和の大切さ」を教育旅行での同世代交流などで、未来へ語り継いでいます。



▶館内を説明する学生語り部